

(様式2)

令和5年度〔自己評価報告書〕

学校番号	学校名	校長名
109	川崎市立虹ヶ丘小学校	井上 恵子

学校教育目標	今年度の重点目標
1. 健康でたくましい子ども 2. 希望をもち、自らを高める子ども 3. 明るく心豊かな子ども 4. よく工夫する子ども 5. すすんで働く子ども	・児童一人ひとりに確かな資質・能力をつける。 ・互いのよさを認め、尊重しあう学校をつくる。 ・心と体が健康で、たくましい子どもを育てる。 ・地域や保護者から信頼される、開かれた学校にする。

評価項目	具体的な取組	成果と課題	具体的な改善策
1 一人ひとりに資質・能力を身に付けさせる。 主体的な学び手の育成 「主体的・対話的で深い学び」の授業づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・学校運営方針に基づくカリキュラムの編成 ・対面式(コの字型)の座席で、「あたたかな聴き方・やさしい話し方」を身に付けさせる。 ・「聴いて・つなげる・深める」授業づくり ・全員参加による授業体制と対話的な学習活動 ・「めあて・見通しと振り返り」による主体的な学び手の育成 ・読書活動の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研究として全学年授業公開し、「めあて・見通しをもち、振り返り」に加え「授業者以外からの価値づけ」に取り組んだ。児童に変容が見られた。 ・温かい聴き手が育ちつつある。自分の考えを表現する時には、相手を意識した話し方ができるようになってきた。 ・校務分掌に読書力向上部会を設けて1年間取り組みを行ってきた。児童の委員会活動でも、さまざまな取り組みを行ってきた。本を身近に置く、紹介カードをつけるなど読書環境を整えても、本を手取る姿は増えなかったように思われる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア・パスポートの様式を学習にも取り入れ、振り返らせることで、さらに学びを振り返る力、自分の成長を理解できる力を身に付けさせたい。 ・学習者が授業を展開できるように、教師はファシリテーターという意識をもち授業を行う。 ・「あたたかな聴き手」「やさしい話し手」の具体的な姿をわかりやすく提示しながら、来年度も学校全体で取り組んでいく。 ・国語科のカリキュラム見直しを行ったり、文詩集かわさきを活用して、読む楽しさを味わわせたい。
2 基礎基本の定着と資質・能力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・「わからない」と言えるクラスの雰囲気づくりと「わからない」に対して児童が説明する対話型の授業づくり。 ・算数のTT、少人数指導導入 ・きめ細かな指導、個別最適な学びに取り組む。 ・GIGA端末を使用した学習の充実 ・家庭学習の見直し 	<ul style="list-style-type: none"> ・入り込みや取り出し、少人数指導など、その時々に応じて行った。成果として、「わからないから教えて」と自ら聞く児童が増えてきた。 ・家庭での学習について保護者の理解を得ながら、宿題に対する意識改革を行い、個別最適な学びを取り入れたが、結果的に家で勉強をしない児童と学習習慣がついた児童の二分化現象が見られた。 ・GIGA端末の活用に慣れ、自分の考えをまとめ、表現することに上達が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、少人数指導を行い、きめ細かな指導をしていく。 ・家庭学習について児童と共に考えていきたい。やらなければいけない課題と主体的な学習とのすみわけを明確にしていく。 ・基礎基本の定着については、児童の見取りを確実にし、「ひとりの子も見捨てない」指導を行う。 ・GIGA端末の更なる有効活用をめざす。

3	<p>互いのよさを認め尊重しあう</p> <p>一人ひとりの違いを認め、多様性を尊重し合いながら共生・協働の心の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的な人権尊重教育と人や自然とのかかわりを通して、共に生きようとする心豊かな心を育てたい。 ・ゲストティーチャーによる特別授業により、人とのかかわりを増やすことで、学びを広げる。 ・互いを尊重、多様性を尊重することを学ばせる。 ・いじめの未然防止教育と早期のいじめ防止基本方針に基づいた対応 ・言葉による自己表現を通じた人間関係づくりの充実 ・「いのちの授業」をカリキュラムに位置づける。 ・児童の声に耳を傾け寄り添う支援を行っていく。 ・支援教育コーディネーターと巡回カウンセラーとの相談の充実をはかる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学年を越えたかかわり合いができています。年間を通して6年生全員がリーダーを経験でき、下級生からあこがれる存在となる成長が見られた。 ・助産師さんによる「いのちの授業」・モンゴル出身のセンジャー先生の講話と馬頭琴演奏」などを実施したことにより、多様性に気づいたり、一人一人が大事な存在であることへの気づきから命の大切さを学ぶことができたりした。 ・朝会・集会・行事・特別活動などさまざまな機会を捉えて「いじめ防止」について児童の思考を促した。成果が出てきた。 ・自分の気持ちを言語化できるようになり、言葉で思いを伝えることができた。関係づくりもスムーズにいくと思われる。 ・巡回コーディネーターにより、外国につながる保護者の相談も受けることができた。登校をしづる児童の保護者も相談に来ている。 ・少しずつ学校に来る時間を増やすことを提案し、登校をうながすことで、学校に来られるケースが増えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育全体で児童の言葉の力を高めていく。 ・自分の言葉で自分の考えを説明する機会を増やし、聴き合うことで他者理解につなげる。 ・小規模校ではかかわりが学校内に閉じてしまいがちである。今後もさまざまな人・もの・ことと出会わせていく。 ・外国につながる児童が学級・学校になじめるような支援を行う。 ・「いのち」を大切に作る取組の年間計画を立てたので、来年度はそのカリキュラムで1年から6年まで実施していく。 ・来年度は相談日を設定し、さらに保護者の相談窓口を広げる。保護者にも寄り添いながら、児童の成長につなげる。 ・朝休みや中休みなど、児童の外遊びが増えるような工夫をする。
4	<p>生きる力の育成</p> <p>児童一人ひとりのよさを引き出し、主体的に考えて行動する児童を育てる。</p> <p>他者貢献・社会参画の態度と心の育成</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の自主的な活動を引き出す。 ・役割を与え、考えて行動する力を育成。その中で、責任感や自己有用感を育てる。 ・自分の心と身体を調整する力を育成する。 ・自分の命、友達や周りの人の命を大切にする心を育てる。 ・委員会活動を活用し、自分たちの力で学校生活をより楽しく充実したものとする力を育成する。 ・学級目標を児童と共に考えることで、クラスを自分たちでつくっていく意識を育てる。 ・防災、防犯、情報モラル、自転車の乗り方などの意識の向上と日常的に人を大切にする取り組みを考える。 ・食育の推進 ・レインボー運動タイムを活用し体力向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計画委員会児童が「3ピース みんなが主役 笑顔あふれる虹っこ」というスローガンを作り、各委員会で何ができるかを話し合い実行した。 ・委員会活動ではスローガンにあるよりよい学校をつくるためには、どのような活動をするかを話し合いながら活動してきた。できるだけ児童の考えを生かすようにした。 ・朝の挨拶交流により、校内外に挨拶の声が響き渡った。挨拶が上手な児童が増えた。 ・学校説明会、学校報告会、学校運営協議会などに児童が参加し、取り組みを保護者や地域の方に説明をしたことは児童の自信につながった。 ・キャリア教育推進で表彰された。地域素材・人材を生かした学習づくりとキャリア・パスポートに力を入れた1年間だった。 ・学級目標づくりに時間をかけ、日常的に意識して生活していた。クラスタイムを活用し、楽しい学級をつくるために係活動などを工夫することができた。 ・校庭開放については、5年生の主体的な行動により、令和6年度開放実施の目途がついた。ルールをつくるための話し合いを繰り返し、チラシ作りや道具の準備などを行っていた。 ・レインボー運動タイムを楽しみにしている児童が多い。校庭で全校児童で行うことで、上級生に追い付きたい、技を真似たいなどの向上心が芽生えている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・3月に6年生から5年生の委員会活動の引継ぎを行った。委員長決めからすでにスタートしている。自分事として「学校をつくる」意識を6年生にもたせたい。 ・児童の思いを大切にして決めた学級目標に向かって行動し、より良い学級を自分たちでつくるという意識を育てる。 ・地域との連携学習、活動をカリキュラムに取り入れ、地域の方々と学びをつくっていききたい。 ・来年度も「自分たちで学校をつくる」意識をもたせ、よりよい学校づくりを行っていく。

5	<p>保護者や地域から信頼される開かれた学校づくり</p> <p>市民から信頼される学校づくりを進め、コミュニティ・スクールとして地域とともに歩む学校をめざす</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員が地域の中の学校という意識をもつ。 ・コミュニティ・スクールとして学校運営協議会の協議を生かし学校力向上をめざす。 ・学校だより、学校HPにより、教育方針や児童の姿を発信する。 ・児童の情報を保護者と共有し、保護者の考えを聴いてよりよい対応を考える。 ・学校評価を生かし、PDCAサイクルにより学校改善に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールとして、地域委員の方々には学校運営に関するご意見や情報をいただき、力強く感じた。児童の姿や授業を見ていただきほめてくださったのが励みとなった。 ・学校HPの更新をより多くし、利用していただけるようにした。 ・保護者の声を聴きながら、保護者と共に学校をつくっていくために、アンケートをとる回数を増やした。 ・学校評価を改善した。「にじいろプラン」に沿った項目で答えてもらったが、期間が短かったからか、回答率がよくなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティ・スクールとして、委員の方々に意見をいただきながら、より具体的に学校運営への提案を行っていく。 ・地域の人・もの・こととかかわりながら学習・学校をつくっていく。 ・学校HPの更新をさらに増やし、学校を開いていく。 ・保護者の意見を聴く場を広げ、その後の経過・結果報告を行っていく。 ・担任、コーディネーターと保護者との面談、電話連絡等で信頼が得られるように対応する。 ・ご意見をいただいた時には、すみやかに結果をまたは経過を報告する。
学校関係者の評価		今年度の学校運営のまとめ・次年度へ向けて		
<p>学校運営協議会の方々に下記のような感想をいただきました。児童と先生との関係が良いことを認めていただきました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・先生方が丁寧に子どもたちと関わりをもっていることが感じられた。1クラスの人数も少なく、密度の濃い6年間になるだろうと思った。 ・学年末ということで、子どもたちが落ち着いていた。 ・楽しそうに授業をしていた。 ・計画委員会の児童の発表がよかった。 ・図工の作品展示が、個性豊かな作品が多かった。楽しそうに授業をしていた。 ・キャリア・パスポートを初めて知りました。良い取り組みです。今後の発展に期待します。 		<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標の実現に向けて、さまざまな方面からアプローチしてきた。わかりやすい学校教育目標と指針は児童が主体的に行動することにつながるようになった。 ・自分の考えをしっかりと、自分の言葉で語る子どもを育てるためには、学級の雰囲気と温かい聴き手が育つことが欠かせない。単級の本校では、低学年から、公平なかかわりや誰とでも対話ができる関係を育てていくことが求められる。全校で、友達のよさを認め合う取り組みを行っていくことに来年度も重点をおきたい。 ・今年度見えてきた課題を改善するカリキュラムマネジメントを行いたい。 ・児童と教職員、保護者を巻き込んだ創意工夫で、楽しい学校をつくりたいと考えている。 		